平成23年度事業報告
及び歳入歳出決算の概要

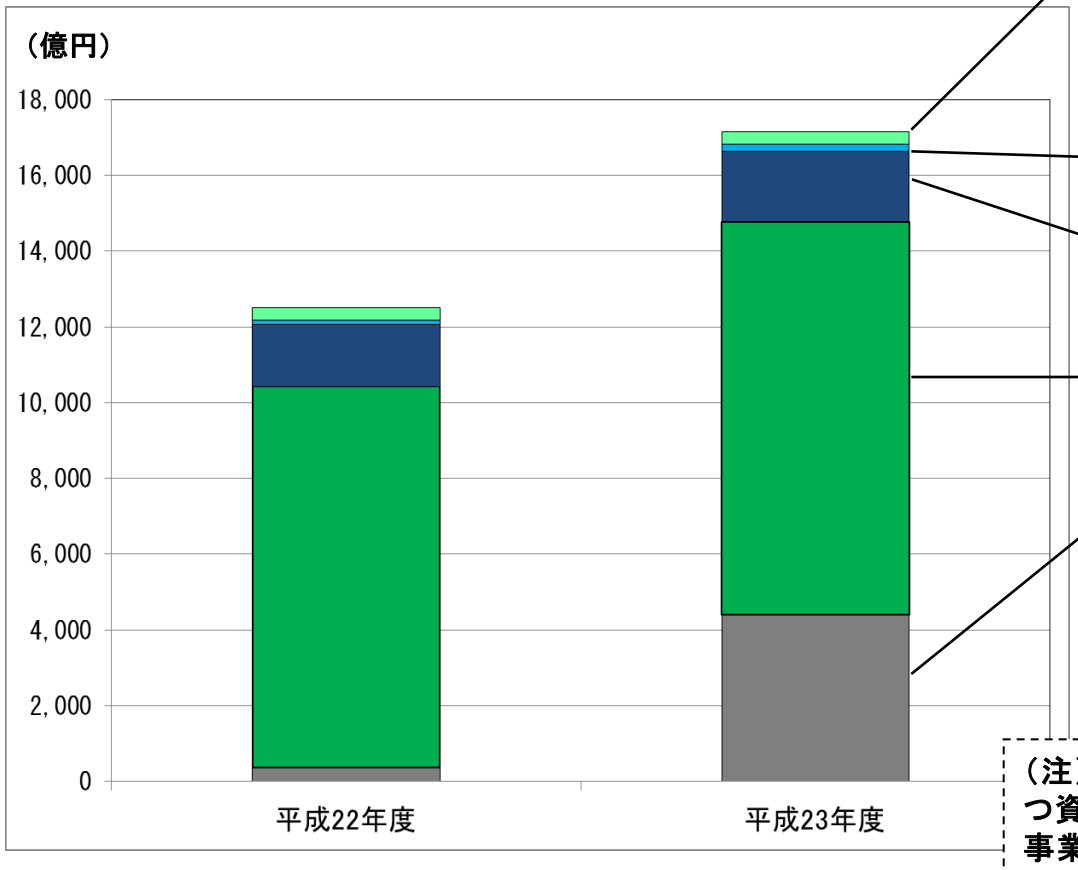
一　般　会　計
退職給与資金特別会計
退職年金資金特別会計
損害填補資金特別会計

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社全体の決算規模（歳出ベース）

総　額
1兆2,514億円

総　額
1兆7,171 億円



3つの資金特別会計
331億円　→　348億円

社会福祉施設特別会計
118億円　→　168億円

血液事業特別会計
1,640億円　→　1,877億円

医療施設特別会計
1兆47億円　→　1兆372億円

一般会計
376億円　→　4,404億円

平成23年度一般会計決算には、東日本大震災にかかる義援金と海外救援金を含んでいます。

（注）総額は、一般会計、社会福祉施設及び3つ資金特別会計の歳出と、医療施設及び血液事業の各特別会計における収益的支出、資本的支出を単純に合計したものであり、会計間の資金の移動については調整されておりません 。

1. 国内災害救護の実施

（1）災害対応項目と実績（東日本大震災）

日本赤十字社救護規則	医療救護	・ 救護班の派遣 ・ 発災当日 55班出動 ・ 延べ6,500人派遣（6カ月間） → 87,000人診療
	救援物資の配付等	・ 毛布　13万枚 ・ 緊急セット　3万セット
	血液製剤の供給	・ 全国の血液センターから陸路、空路で血液製剤を輸送 → 安定供給を確保
	義援金の受付と配分	・ 受付　3,521億円 ・ 配分　3,058億円（122万件） ※平成24年3月30日現在。 いずれも中央共募分を含む。

様々なニーズへの対応	こころのケア	・ 718人を派遣→14,000人を対象
	介護チームによる福祉施設支援	・ 15班 67人を派遣 →陸前高田市、大槌町 （被災入所者 436人）
	看護ケア	・ 17班 35人を派遣 → 828人を対象
	ボランティアの活動	・ 162,000人が活動 ・ 炊き出し ・ 給水作業 ・ 瓦礫処理 ・ 救援物資の仕分け、積込み ・ 義援金募集 など
	復興支援	・ 海外救援金による支援 （96の赤十字社等から963億円） ・ 家電セット 13万世帯 ・ 医療施設再建 ・ 原発事故への対応

(2)東日本大震災を踏まえた課題への対応

①被災地・被災者の要望　②第三者による活動評価

③支部・施設の意見　を反映させた災害対応計画、

及び資機材整備計画の策定

ア　確実な通信システムの構築

イ　燃料を含む救援物資の調達と供給

ウ　後方支援体制の整備(支援要員中継基地等)

エ　消防や自衛隊等との平時からの協力関係の強化

など

（3）救護員等の養成・育成

・防災ボランティア・リーダー養成研修会

…社会福祉協議会等と連携した活動の促進

・全国赤十字救護班研修会（日赤DMAT研修会）

…救護班の初動活動の強化と技術のレベルアップ

防災ボランティア・リーダー
養成研修会

（4）大規模地震対応計画の整備

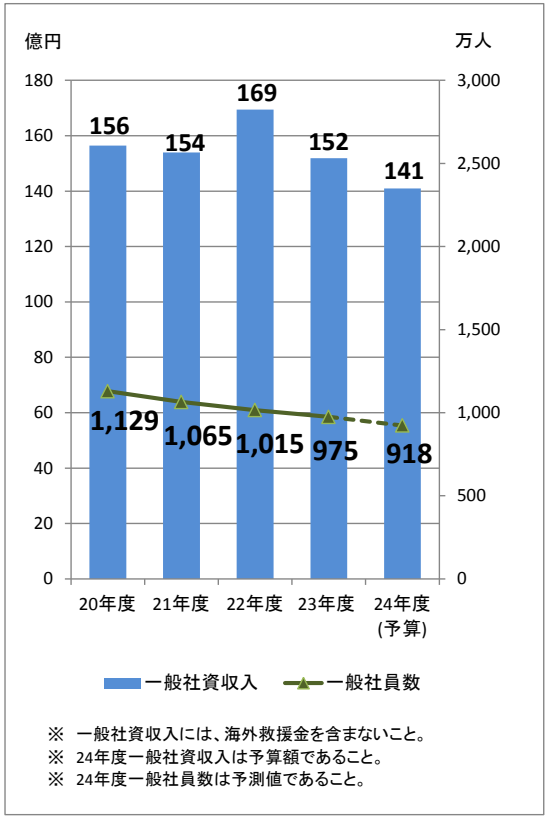
・国の防災基本計画等を踏まえた首都直下地震対応計画の作成（平成22～23年度）

・東南海・南海地震対応計画、各地震における各支部実行計画の作成に着手（平成23年度～）

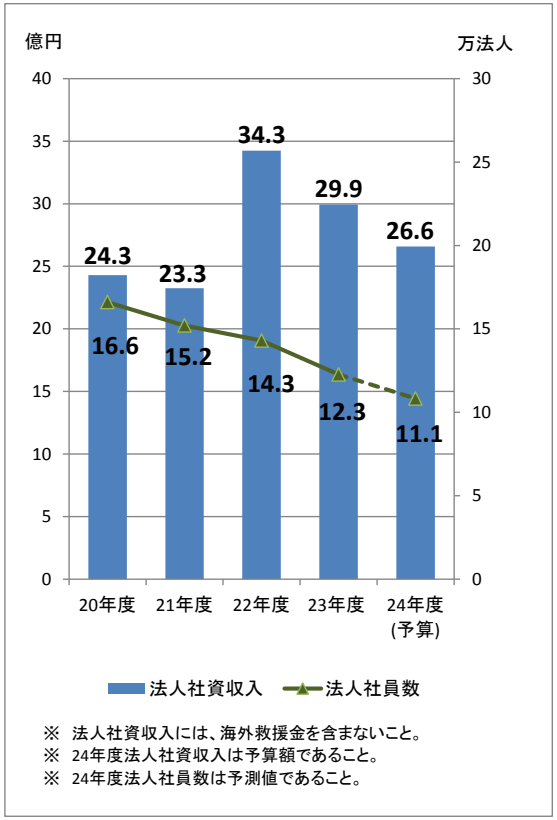
2. 赤十字の理解と基盤強化の取り組み

（1）社資・社員の現状

個人



法人



・減少傾向にある
社員数・社資
：長期的な不況、
NPO等の増加、
東日本大震災

（2）社員募集の推進

・　社員増強、社資募集強化に向けた取組み

・　ポイントプログラム等を活用した企業との提携

例）平成23年度に新たに提携したプログラム

ジャックスカードプラス（株式会社ジャックス）　など

→　18社と提携、約5,900万円の寄付

・　企業・団体毎に社員等の寄付受付や入金情報管理、受領書の発行機能等を備えた寄付受付サイトの構築

→　平成24年度運用開始（予定）

（3）広報活動の推進

ア－１　若年層への赤十字運動参加促進

・AKB48を起用した、「もっとよく知る赤十字キャンペーン」

- 赤十字検定：活動内容に関するクイズ
（抽選でAKB48コンサート招待
＋会場内日赤ブースの運営）
- AKB48のメッセージ動画配信
- メールマガジンの発信

AKB48による記者発表会

アー２　戦略的なメディア活用

- ニュース･リリースによる積極的な発信　（本社 **143**件）
- YouTubeによる動画配信　（計**19**本　再生回数**15万**回）
- Facebookなどのソーシャルメディアを利用した情報提供（平成23年11月～　平日毎日発信）

＜義援金受付団体としての説明責任＞

･中央紙だけではなく、地方紙を活用した説明責任の遂行

広告内容	掲載日	段数等	中央紙	ブロック紙	地方紙	計
義援金	23.9.11	5段･白黒	4	4	43	51
海外救援金	23.9.15	5段･カラー	5	4	7（東北）	16
義援金及び海外救援金	24.3.11	7段･カラー+8段･白黒	5	4	43	51

アー３　広報特使の活用・広報資材の強化等

＜広報特使・藤原紀香さんのボランティア活動＞

1. 福島市、石巻市など（4月）
   →全ての全国局で計38分OA、新聞、雑誌等に多数報道
2. 陸前高田市、大槌町など（5月）
   →（取材制限）スポーツ紙・地元3紙、WEB等で報道
3. 仙台市、女川町など（7月）
   →（取材制限）地元のケーブルテレビと2紙に掲載
4. 福島市、相馬市など（10月）
   →地元NHK、民放各社で報道、地元2紙に掲載

赤十字運動
キャンペーンポスター
→30万枚配付

・「昭憲皇太后と赤十字展」の開催による赤十字の理解促進

会期：3月26日（月）～5月28日（月）
入場者数：約28,000人

イ　全社的広報活動「もっとクロス！」の推進

- ブロック別広報セミナーの開催　7回
- 全国広報担当者会議の開催（3月）

：支部・施設の広報活動事例を募集、表彰（199作品）

＜受賞作品＞

- プラチナ賞 ： 石巻赤十字病院

「東日本大震災　石巻赤十字病院の災害時広報活動」

- 金賞 ： 和歌山県赤十字血液センター

「TVデータ放送・けんけつちゃんねるーリモコンdボタンで献血情報」

3. 基本的赤十字活動の実施

(1)海外での救援活動や開発協力

ア　緊急救援関係

・トルコ地震(平成23年10月):毛布等の救援物資を輸送

・アフリカの食糧危機への資金援助

・ERUの整備(海外拠点のドバイ)

・アジア太平洋地域の広域防災支援

:救援物資の備蓄(クアラルンプール)

給水・衛生キット配備(ネパール)

トルコへ輸送する物資を
確認する日赤職員

イ　復興支援

- **ハイチ大地震**（平成22年１年発生）
  ：保健・衛生知識の普及、
  ERUの派遣（コレラ対策）
- **中国青海省地震**（平成22年４月発生）
  ：学校・病院等の再建
- **パキスタン洪水**（平成22年７月発生）
  ：４万世帯分の住宅再建

衛生教育を受けた子ども
による清掃活動（ハイチ）

適切な技術指導に基づき
建築される家（パキスタン）

©IFRC

ウ　保健衛生

・感染症対策事業（南部アフリカ）

：HIV感染者へのケア、AIDS孤児支援など

・救急法普及支援事業（アジア・大洋州）

：東ティモール、パキスタン、カンボジア、ミャンマーでの救急法普及事業を財政面、技術面から支援

救急法を学ぶ赤十字ボランティア
（東ティモール）

エ 「NHK海外たすけあい」キャンペーン

	件数（件）	受付金額（万円）
平成21年度（第27回）	77,467	69,771
平成22年度（第28回）	76,425	68,698
平成23年度（第29回）	65,315	53,384

→ キャンペーンの一環として「赤十字シンポジウム2011 ～たすけあう世界へ～」を開催（平成23年11月）

オ 国際活動の人材養成

- **国際救援・開発協力要員研修Ⅱ（IMPACT）**
- **基礎保健ERU研修**

→ 新たに21人の海外派遣要員の養成

（2）赤十字講習の普及

ア　講習実績（平成23年度）

（単位：人）

講習名	一般普及講習	短期講習	計
救急法	92,900	342,800	435,700
健康生活支援講習	4,700	89,900	94,600
幼児安全法	5,600	51,600	57,200
水上安全法	3,800	46,500	50,300
雪上安全法	200	300	500
計	107,100	531,000	638,100

※短期講習は年齢・時間の制約なし。
四捨五入により合計が一致しない項目がある。

→　救急法、健康生活支援講習の受講者数
：　東日本大震災などにより関心が高まり、
前年度実績を上回る

イ　講習の普及強化

・　インターネットを利用した普及方法

・「心肺蘇生」「AEDの使用方法」の動画を作成

：　インターネットで公開（2カ月で10,000アクセス）

・　ライフステージに応じた講習の推進

地域、防災訓練⇒きずの手当 ＋ 災害時高齢者生活支援講習

学校、PTA　⇒心肺蘇生・AED ＋ プール監視

子育てサークル⇒こどもの事故予防 ＋ 心肺蘇生・AED

・　企業・団体とのタイアップ

・コープ共済連

「子育て支援ワークショップ」

：子どもの事故防止と手当、

看病等を学ぶ（千葉県）

乳児への心肺蘇生

→　テレビ、新聞等のメディアで取り上げられた

：平成24年度以降は全国で展開（予定）

（3）青少年赤十字の活動

ア　青少年赤十字活動の強化

- 指導者、メンバーの育成

  例）指導者協議会：307回、7,038人参加

  メンバー対象トレーニング・センター/

  スタディー・センター ： 201回、9,934人参加

- モデル校報告書の活用（非加盟校を含め15,000部配付）

  例）宮若中学校（福岡県）「ハートキューピッド作戦」

  ：一人暮らしのお年寄りに年賀状を送る

イ　国際交流の推進

＜青少年赤十字メンバーが集めた資金で事業を運営＞

- 文具等の配付　6,000セット
- 教育・衛生環境の改善

  :学校内の水道、トイレ等の衛生設備の修理、新設

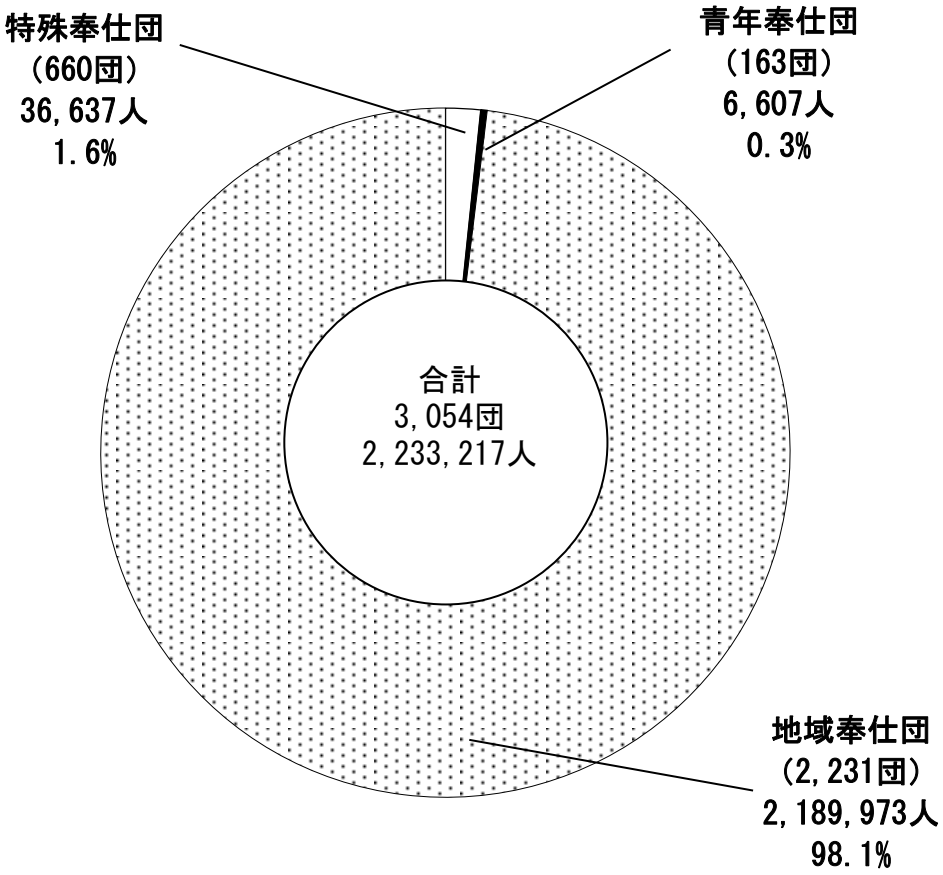
  （バングラデシュ、モンゴル、ネパール）

- アジア各国のメンバーとの交流

  :75人を派遣、33人を受入れ（バングラデシュ等）

（4）赤十字ボランティアの活動

ア　赤十字奉仕団の登録状況



＜東日本大震災に対する活動＞

- 瓦礫の撤去
- 避難所での炊き出し
- 義援金募集　など

イ　赤十字奉仕団活動の強化

- ボランティアリーダーの育成
- 青年赤十字奉仕団によるHIV・AIDS予防啓発活動
- モデル活動報告集の作成

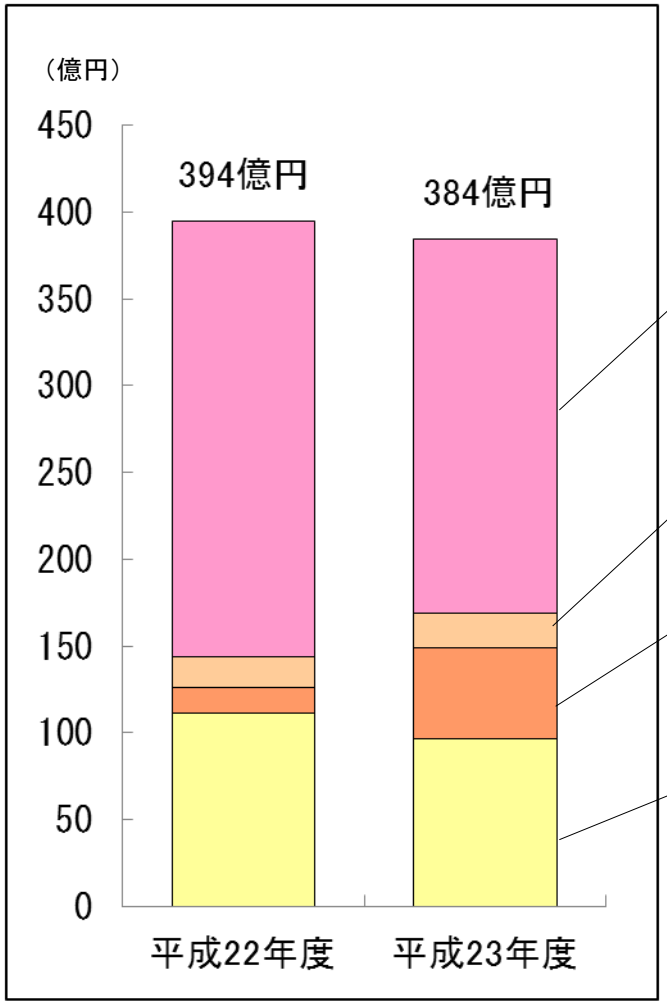
例）むつ市大畑分区赤十字奉仕団（青森県）

：　献血者向けの児童の感謝メッセージ入りティッシュの作成、配付

感謝メッセージ入りティッシュ

4. 一般会計歳入決算のあらまし

※東日本大震災にかかる義援金・
海外救援金分を除く



社資収入

［ 251億円 → 215億円 ］ △14.3%

委託金･補助金等

［ 17億円 → 19億円 ］ 16.9%

繰入金収入

［15億円 → 52億円］ 248.9%

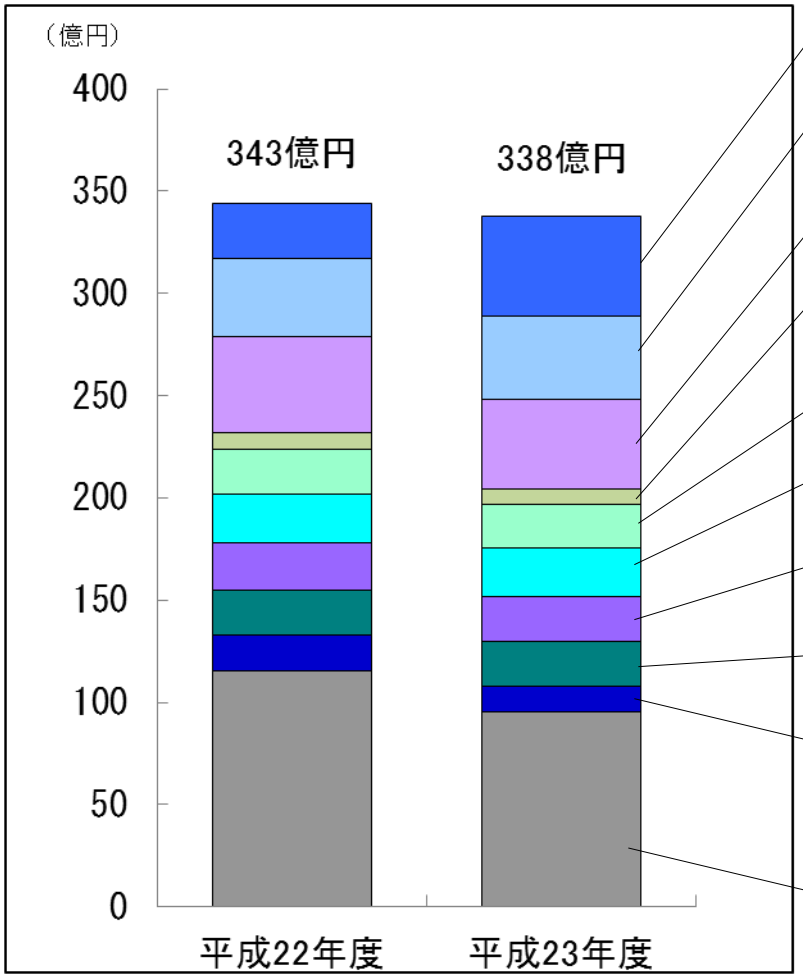
その他

［111億円 → 96億円］ △13.4%
前年度繰越金（64億円 → 50億円）
（貸付金償還 6億円 → 2億円）
（災害等資金借入金 15億円 → 8億円）
（地代収入等 25億円 → 30億円）

	平成22年度		平成23年度	増減率
歳入合計	394億円	→	384億円	△2.6%

5. 一般会計歳出決算のあらまし

※東日本大震災にかかる義援金・海外救援金分を除く



災害救護事業費
［26億円 → 49億円］ 86.0%

社会活動費
［38億円 → 40億円］ 5.4%

国際活動費
［47億円 → 44億円］ △6.9%

指定事業地方振興費
［8億円 → 7億円］ △13.0%

地区分区交付金
［21.7億円 → 21.5億円］ △1.3%

社業振興費
［23.55億円 → 23.59億円］ 0.2%

本社送納金
［23億円 → 22億円］ △2.4%

基盤整備交付金補助金支出
［22億円 → 21億円］ △3.9%

資産取得及び資産管理費
［17億円 → 12億円］ △24.6%

その他 ［115億円 → 95億円］ △44.3%
貸付金（15億円 → 8億円）
償還金（9億円 → 3億円）
積立金（49億円 → 39億円）
総務管理費等（41億円 →43億円）

	平成22年度		平成23年度	増減率
歳 出 合 計	343億円	→	338億円	△1.7%
歳入歳出差引額	50億円	→	46億円	

6. 東日本大震災義援金の歳入歳出

歳入

3,146億1,825万808円

歳出

3,146億1,825万808円

（歳出内訳）

○被災都道県の義援金配分委員会への送金額 3,101億1,316万7,486円

北海道	9,588,072円	群馬県	4,724,036円
青森県	463,829,316円	埼玉県	151,945,096円
岩手県	21,965,113,176円	千葉県	1,281,195,356円
宮城県	157,021,862,534円	東京都	199,965,596円
山形県	8,310,060円	神奈川県	106,506,764円
福島県	118,735,828,024円	新潟県	187,593,652円
茨城県	7,975,814,420円	長野県	131,036,984円
栃木県	1,869,854,400円		

○翌年度繰越額（事業準備積立金支出） 4,505,083,322円

7. 東日本大震災海外救援金の歳入歳出

歳入

920億円

（内訳）

各国赤十字社等による寄付　519億円
（前年度繰越額、30億円を含む）

クウェート政府原油寄贈による復興資金　401億円

※ なお、上記は平成23年度の決算値であり、発災後から平成24年3月までに963億円の海外救援金（協定締結済を含む）が寄せられた。

歳出

920億円

（内訳）

○事業費用等	**754億円**
緊急救援物資支援	2億円
避難所等居住者への支援	261億円
高齢者等への支援	5億円
教育支援	6億円
医療支援	69億円
原発事故対応	2億円
管理費	4億円
その他の費用	0.1億円
被災県積立金への拠出（クウェート政府寄贈原油代金送金）	401億円
○翌年度繰越額（事業準備積立金支出）	**165億円**

8.　一般会計歳入歳出決算（全体）

歳入決算（一般会計全体）

4,451億円

（内訳）

・東日本大震災にかかる
義援金・海外救援金分を除く　384億円

・東日本大震災義援金・
海外救援金関係
- 義　援　金　3,146億円
  （災害義援金預り金）
- 海外救援金　920億円
  （寄付金等収入・繰入金収入）

歳出決算（一般会計全体）

4,404億円

（内訳）

・東日本大震災にかかる
義援金・海外救援金分を除く　338億円

・東日本大震災義援金・
海外救援金関係
- 義援金送金額等　3,146億円
  （事業準備積立金支出含む）
- 海外救援金事業費用　920億円
  （事業準備積立金支出含む）

	平成22年度		平成23年度	増減額
歳入合計	427億円	→	4,451億円	4,023億円
歳出合計	376億円	→	4,404億円	4,027億円
歳入歳出差引額	50億円	→	46億円	△4億円

9. 資金特別会計決算のあらまし

退職給与資金特別会計

歳入歳出決算額　329億円

歳入
- 退職給与資金積立金　320億円
- 退職給与基金繰入金　９億円

基金残高　784億円

歳出
- 退職給与資金交付金　324億円
- 退職年金資金特別会計繰出金　５億円

退職者数　5,452人

退職年金資金特別会計

歳入歳出決算額　12億円

歳入
- 退職給与資金特別会計繰入金　５億円
- 退職年金基金繰入金　７億円

基金残高　27億円

歳出
- 退職年金給付費　12億円

閉鎖年金給付対象者数　2,186人

損害填補資金特別会計

歳入歳出決算額　５億円

歳入
- 損害填補積立金　4.5億円
- 保険金収入　0.8億円

基金残高　99億円

歳出
- 保険料　0.5億円
- 損害填補費　0.9億円
- 損害填補基金編入金　3.7億円

損害填補費交付件数　33件